



	<p>(3) 過去に質問をしたが、町長は、元町議で現在も公職の議員である人物と親しくされており、町長が元町議に対して付度をしているのではないかと、被害児童、被害児童保護者は懸念されている。町長ご自身の発言、行動が調査結果公表の阻害要因になっているようなことはないか。</p> <p>(4) 教育長においては、5月22日の新聞記事「新教育長に聞く」という記事の中で、第三者委員会の結論が出ればこれからのことを即やりたいと言っておられるが、即やりたいとは、具体的に何か。</p> <p><b>2. 小規模保育施設の開園について</b></p> <p>町立大磯幼稚園の民営化による認定こども園化への移管時期が令和8年4月となった。当初の計画より2年遅れてしまったが、その間の待機児童対策として小規模保育施設を令和6年6月1日に開園させたが、待機児童対策として開園した小規模保育施設の状況について問う。</p> <p>(1) 小規模保育施設の開園状況はいかがか。また、建物の改修や備品の整備は滞りなく完了したのか。</p> <p>(2) 広報4月号に、令和6年度の待機児童対策として、小規模保育施設が6月に開園することは記事になっていたが、募集については広報の記事ではなかった。どのような方法で広く周知したのか。</p> <p>(3) これまで町立化を進めていた町長にとって、民営事業者はどのような存在であるのか。</p>	町長
<p>3 3番 鈴木たまよ議員 (50分) 11:25~12:15</p>	<p><b>1. ゼロカーボンシティの実現に向けた町の緑の保全について</b></p> <p>先般の3月定例会で、「公園の樹木管理の在り方」について一般質問をしたが、その際に樹木が私たちの生活を守り、また気候変動やCO2の問題解決にも寄与することを述べさせていただいた。</p> <p>数年前から科学者は気候変動の「臨界点」について警告してきた。臨界点を超えてしまうことで地球の気候システムは制御不能となり、もう元には戻れない。そんなギリギリの状況にあることを踏まえての『大磯町気候非常事態宣言』であり、ゼロカーボンシティの表明であったと理解している。</p> <p>しかしながら一方で、樹木の健康を損なう強剪定や、遊具を設置するために公園の樹木が伐採されていることに、矛盾を感じている町民は多い。</p> <p>町の緑を健全に保全することは、カーボンニュートラル、そしてカーボンネガティブへとつながる。次の点について町の考えや取り組みを伺う。</p> <p>(1) 公園のみどりをどのように考えているのか。</p> <p>(2) 自然環境保全に寄与する市民団体との協働について</p> <p>(3) 「大磯町緑の基本計画」の更新について</p> <p>(4) 宣言書には「2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロにすることを目指す」とあるが、実現できるのか。</p>	町長
<p>4 12番 毛利泰輔議員 (60分)</p>	<p><b>1. 防災強化・減災への取組について</b></p> <p>平成23年の東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）、平成28年の熊本地震、直近では本年1月1日発生した能登半島地震等、大規模地震が発生しており、本町も防災強化・減災に向けて、行政・町民も取り組んでいる</p>	町長

<p>13:15～14:15</p>	<p>状況と認識している。大きく分類すると、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①行政機能の防災強化では、新庁舎整備、消防庁舎整備、防災行政無線の更新</li> <li>②減災対応では、住宅の耐震化、緊急の給水排水資材と輸送路確保対応</li> <li>③緊急時における住民自身の生活で、自助・共助・公助等による情報・物資確保の対応</li> </ul> <p>特に能登半島地震では、大磯町からも消防本部・事務職員の方が支援に行かれての経験が生かされ、本年6月議会で、前述①②③の施策に関して補正予算が提案されているのは、非常にクイックリー（迅速）であると考え。防災強化・減災に向けての取組に関して、町民の方々と共有するため、確認を含めて次の点について伺う。</p> <p>(1) 行政機能について（防災の専門・専任は自治体！）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①新庁舎整備（令和8年3月完成予定）の進捗状況と完成までの防災対応は。</li> <li>②災害発生時の行政職員（消防・危機管理・一般行政）・土木系事業者の対応は。特に、大磯町在住人員・事業者・神奈川県とのシステム・物理的連携について</li> </ul> <p>(2) 昨年11月5日「津波防災の日」に実施の「代替庁舎災害対策本部訓練」、及び本年3月14日実施の「本庁舎・保健センター地震避難訓練」は、大磯町行政部門の現庁舎が利用不可を前提の訓練と理解するが、それらの結果を確認したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①行政部門の「ノジマ大磯スクエア」への代替庁舎対策本部訓練結果と対応は。</li> <li>②防災（危機管理）の情報伝達（MCA無線・タブレット・Lifevision）について</li> </ul> <p>(3) 情報システム（サーバー類）の現状と防災強化について（他自治体の状況含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①神奈川県内14町村が利用している重要な基幹系の「神奈川県町村情報システム共同事業組合」クラウドシステム利用で、防災上も安心して継続利用できるか。</li> <li>②本庁舎内の情報システムで、平時含む障害の発生・災害時の対応は。</li> <li>③新庁舎整備完了でシステムも物理的に移行するが、その方法・考え方は。</li> </ul> <p><b>2. 情報システムと大磯町デジタル化推進計画について</b></p> <p>令和5年8月3日の総務建設常任委員会の協議会で、大磯町デジタル化推進計画（案）（その後、9月14日付けで配布）が提示された。今後の進め方も含めて、次の点について問う。</p> <p>(1) 本デジタル化の推進体制（副町長をトップ）があり、政策課（情報化推進係＝デジタル化推進担当）がDX対応での技術的マトメ部署であるが、進捗状況は。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①働き方改革につながる施策について</li> <li>②お客様（町民）の負担低減策について</li> <li>③人材育成・体制について</li> </ul>
--------------------	---

	<p>(2) 地域社会のデジタル化「デジタル田園都市国家構想基本方針（令和4年6月7日）閣議決定）の取組で、大磯町独自の専用システムの進捗状況について問う。</p> <p>①デジタル庁（助成金・人材育成対応）の提案について</p> <p>②新庁舎建替え・防犯・来庁者等への対応は。</p> <p>③観光・商業の活性化で、いそたび等に結び付ける対応は。</p>	
<p>5 9番 石川 則男議員 (65分) 14:30~15:35</p>	<p><b>1. 町民のささやかな疑問・要望にどう応えるのか</b></p> <p>(1) 大磯町立小学校のいじめ問題について、第三者委員会の報告書はできたのか。</p> <p>(2) 区長・民生委員・消防団員・地域コーディネーターそれぞれの身分・業務内容と対価（交付金・報酬・費用弁償・謝金）は妥当か。</p> <p>(3) 大磯町社会福祉協議会は正常化したのか。</p> <p>(4) 横溝千鶴子記念障害福祉センターは、町内で活動する障害福祉関係の方々が早期に使用できるよう、協議していくと町は説明していた。2年になるがどのような状況か。</p> <p>(5) 大磯町公共施設のトイレを全て洋式にしてほしいとの要望があるが、洋式・和式はそれぞれいくつあるのか。ふれあい会館を利用している高齢者が苦勞している。</p>	<p>町長 教育長</p>
<p>6 8番 鈴木 京子議員 (65分) 15:50~16:55</p>	<p><b>1. 「町民まんなか元年」の進め方を問う</b></p> <p>「町民まんなか」の定義について、町長は議会や町政報告会などで説明されているが、具体的な進め方が見えてこない。民主的な進め方が求められると考えるが、「トップダウン」の度が過ぎると「町長まんなか」になりかねない。さまざまな要望や意見を取り入れ、議論する仕組みを、自治基本条例を基に構築する考えはないか。</p> <p><b>2. 新教育長に問う</b></p> <p>府川新教育長の考えや心意気については直接伺う機会もあり、一程度の理解はしているところだが、次の点について所見を伺う。</p> <p>(1) 首長と教育長、教育委員会の関係性を、「協力、介入・不介入」の観点から説明されたい。</p> <p>(2) いじめ事案について、対応の変更は考えているか。</p> <p><b>3. マイナンバー保険証利用での混乱回避策は</b></p> <p>マイナンバーカードの取得は任意で、他人に見せない、渡さないことが基本にある。これらを踏まえ、紙の健康保険証が廃止される、今年12月2日以降の町の対応を問う。</p> <p>(1) 直近のマイナンバーカードの取得者と国民健康保険、後期高齢者医療保険のマイナ保険証の取得状況と利用状況は。</p> <p>(2) マイナ保険証のメリット、デメリットは。不利益（デメリット）を回避する手段はどんなものがあるか。周知についての考え方を問う。</p>	<p>町長</p> <p>町長 教育長</p> <p>町長</p>

質問議員	質問事項(2日目)	
<p>7</p> <p>5番 亀倉 弘美議員 (50分) 9:00~9:50</p>	<p><b>1. 職員の働き方改革について</b></p> <p>バブル経済の崩壊とその後の経済不況を踏まえた行政改革のなかで、人件費の抑制を目指し、全国の自治体において職員の定員適正化が図られてきた。大磯町では「定員適正化計画」のもと、職員数を平成9年の312人から平成22年には260人へと削減し、以後、そのなかで効率的な行財政運営と複雑な行政サービスに対応してきた。</p> <p>しかしながら、新型コロナウイルス対策などに代表される業務量の増加や待遇への不満もあいまって、若手職員の離職が増加傾向にあると承知している。</p> <p>少子高齢化と人口減少を前に、持続可能なまちづくりの施策立案の核となる職員を確保していくためには、多様な働き方を可能にした職員体制の構築が求められていると推察する。</p> <p>このような状況下、職員の働き方改革に対するこれまでの取り組みと今後の課題及び展望について伺う。</p>	<p>町長</p>
<p>8</p> <p>2番 橋本 秀彦議員 (50分) 10:05~10:55</p>	<p><b>1. 高齢者が住み慣れた自宅で暮らせるまちづくりについて</b></p> <p>大磯町も高齢化が急速に進む中、いつまでも住み慣れた我が家に住み続けたいという高齢者の方のお声が私にも多く届いている。大磯町は大半の高齢者が「持ち家」に住んでおり、その傾向は一層強いと認識している。</p> <p>しかし単独世帯を含めた高齢者が生活を維持していくためには、食事、買物、ごみ出し、庭木の手入れといった日常的生活の問題から、交通移動手段、介護支援など様々な課題もあり、今後更に高齢化が進んでいく中で、更なる仕組みの強化、高齢者を支える包括的な支援体制が必要と考える。そこで、これまでの町の取組、及び新たに策定された『第九期大磯町高齢者福祉計画・介護保険事業計画』について、次の点を町長に問う。</p> <p>(1) 町の高齢者数及び高齢者世帯数の推移は。  (2) 日常生活・生活支援にかかる大磯町の特徴と課題は。  (3) 第九期の計画における新たな視点と取り組みは。</p> <p><b>2. 北浜海岸の海水浴場の現状について</b></p> <p>北浜海岸は海水浴場として、かつては町の夏の風物詩として賑わいを見せていた。しかし近年は、コロナの影響もあり、その規模は年々縮小し、海の家も数軒に減少してしまい、隣接する大磯港では、様々な町おこしのイベントで活性化しているのとは対照的に、衰退している印象を受ける。大磯町は、海水浴場発祥の地として全国的にも知られていることを考えると、現状は寂しい限りである。また長年大磯町に住まわれている住民からは、もう一度海水浴で賑わうことを願っており、海水浴場が賑わいを取り戻してこそコロナから脱却し、大磯町の賑わいを実感できるとの声をいただいている。そこで、次の点を町長に問う。</p> <p>(1) 海水浴場の現状をどのように認識しているか。  (2) 町としての海水浴場の観光資源としての位置づけは。  (3) 今後に向けた具体的な施策は。</p>	<p>町長</p>

<p>9 7番 竹内恵美子議員 (50分) 11:10~12:00</p>	<p><b>1. 地域コーディネーターについて</b>  今、社会では、デジタル化が急速に進み続けている。  学校現場においてはGIGA スクール構想のもと、一人1台の端末等のICTの環境が整備され、個別に最適な学びと共同的な学びの一体的な充実を図り、教育の質の向上につなげていくことが求められていると思う。  また、子どもたちを取り巻く環境や学校が抱える課題は複雑・多様化しており、学校と地域との連携や協働活動等の重要性が指摘されている。  町では、「地域と共にある学校」への転換を図るため、令和4年4月から、学校運営協議会を設置し、その仕組みづくりに取り組んでおり、令和5年度には、「学校を核とした地域づくり」を目指して、地域協働活動地域コーディネーターを委嘱していると伺っている。  そこで、先日来お話が出ている大磯町の新しい地域コーディネーターについて伺う。  (1) 地域学校協働活動地域コーディネーターの選考の基準、選考方法、また、地域コーディネーターの役割はどのようなものになるか。  (2) 地域コーディネーターの活動費については、生涯学習課で予算措置しているものと理解しているが、具体的にはどのような予算措置をしているか。</p> <p><b>2. 教育支援室「つばさ」について</b>  大磯町教育研究所ができ、以前は適応指導教室だったが、2020(令和2)年4月から教育支援室「つばさ」と名称が変更された。  去年の10月に文部科学省で公表した「令和4年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」によると、小中学校における不登校児童生徒数は、約29万9千人を超えて過去最多になっている。そのような中、本町でも令和2年に新たに旧横溝邸を改修し、教育支援教室「つばさ」を開設した。そこで伺う。  (1) 教育支援センターとなる教育支援室「つばさ」には、どのくらいの児童・生徒が通っているか。  (2) 学習支援やカウンセリング、また学校との連携などで、教育支援室が抱えている課題や問題等はあるか。  (3) 国府地区の児童・生徒は、両親が送迎をしないと教育支援室に通室できないと聞いているが、その辺は教育委員会では承知しているか。今後、国府地区の設置は考えているか。</p>	<p>町長 教育長</p>
<p>10 15番 庄子 幸太議員 (45分) 13:00~13:45</p>	<p><b>1. 新教育長の見識について</b>  3月議会全会一致の可決を経て、令和6年4月1日より就任された府川新教育長には期待と共に対応すべき課題が山積している。そこで、表明された所信から大磯町の教育に対する見識を改めて伺う。  (1) 「授業の質の向上」や「体験活動の充実」を向上させ得るために必要なことは何か。  (2) 「子どもたち自身の学校生活の充実」を図るための具体策は。  (3) 今年度、町が行う初めての試みとして、教育と福祉を横断的に取りまとめる(仮称)「こども計画」の策定に対する教育委員会の姿勢は。</p>	<p>町長 教育長</p>

	<p><b>2. 住宅耐震化と避難訓練について</b></p> <p>3月議会の一般質問では、個別避難計画作成の過程における地域との繋がりの重要性を再確認した。ここから得られた地域の課題に対し、命を守るための実効性ある備えについて、町の見解を伺う。</p> <p>(1) 住宅の耐震化促進における町の考え方について</p> <p>(2) これからの避難訓練で、特に重視することは何か。</p>	町 長
<p>11 11 番 高橋 英俊議員 ( 50 分) 14:00～14:50</p>	<p><b>1. 大磯町立小学校のいじめ問題について</b></p> <p>昨年4月に、被害児童保護者が町の一連の対応について情報開示請求をされて、「重大事態」に認定された件について伺う。</p> <p>被害児童、被害児童保護者、関係者の方より、今春就任された府川教育長には大磯町教育委員会、行政の膿を出し切っていただきたい、公平公正な立場から第三者委員会の結果公表にも取り組んでいただきたいという期待のお声をいただいている。</p> <p>一方で、本件を進めていくにあたり、府川教育長に対して政治的圧力がかからないかという心配の声もいただいている。そのような圧力があるのであれば、負けずに頑張っていただきたいと私は心から期待している。次の点について伺う。</p> <p>(1) 本件の調査結果公表は、被害児童、被害児童保護者のお気持ちに寄り添って対応するべきと考えている。教育長の見解は。</p> <p>(2) 被害児童、被害児童保護者の方からは、府川教育長着任後、大磯町教育委員会とのやりとりで教育長より心強いメッセージをいただいたと直接伺っている。そのうえで教育長は、今までの被害児童、被害児童保護者と教育委員会とのやりとりは問題なかったとお考えか。</p> <p>(3) 被害児童は陰湿ないじめを受けて、命の危険を感じてやむを得ず当時の大磯町立小学校から転校した。転校先の学校のクラスの仲間、先生方、教育委員会は快く対応をしてくださり、今でも学校で出来た友達との関係性は続いているという話を伺っている。</p> <p>中学校については、大磯で勉強をしたいという気持ちはあったものの、当時の大磯町池田行政、教育委員会から誠意ある対応はなく、本件が解決していない中で、他町にご迷惑をおかけすることも出来ないため、今も大磯から私学に通っているというお話があった。</p> <p>当時、転校先の教育委員会関係者からは、「サポートをしますが、当町でもいじめはあるし、被害児童が馴染めるかは本人の努力も必要です」とお話があった。しかし、転校先の教育委員会、学校は当時の大磯町立小学校、大磯町教育委員会とは異なり、公平公正にサポートをしてくださったそうである。今でも感謝をされていた。</p> <p>被害児童、被害児童保護者は、池田町長の口だけの姿勢、行動に絶望をしておられ、転校先の教育委員会に居られた府川教育長に改革を期待されている。教育長の想いを伺う。</p> <p><b>2. 大磯港周辺の安全安心への対策と漁業振興への取組みについて</b></p> <p>(1) 国内で発生する大規模災害に対する備えとして、大磯港は海上輸送基地としての重要な位置付けにあるとともに、海岸線に設置されている防潮堤などは町民の生命や財産を守るための防災機能としても大</p>	<p>町 長 教育長</p> <p>町 長</p>

	<p>変重要なものとなる。</p> <p>大磯港周辺の防災機能や防災設備は万全なものであるか伺う。</p> <p>(2) 大磯港では、今年2月3日の大磯二宮漁業協同組合での定置網の操業式典、その後の魚の朝市の復活など、漁業振興への取組みに活気が生まれ、進んできていると感じる。</p> <p>今後、漁業協同組合では水産物加工場の整備も予定していると聞かすが、漁業協同組合との連携も含めた、町の6次産業化策など、漁業振興策の取組みへの考えを伺う。</p>	
<p>12</p> <p>6番</p> <p>玉虫志保実議員</p> <p>(50分)</p> <p>15:05~15:55</p>	<p><b>1. 町民活動への町の財政的支援について</b></p> <p>現在、町が行っている町民活動への財政的支援には、町民活動推進補助金がある。</p> <p>4月の広報で募集している「町民活動推進補助金」の審査会を平成29年から毎年傍聴しているが、応募団体の数が年々減少していると感じる。</p> <p>また、町内には、福祉、健康、環境、文化、スポーツなどの分野において、さまざまな活動をしている個人や団体がいるが、人口減少、少子高齢化社会が進行する中で、コロナ禍の影響からも、その活動が縮小し、地域のつながりも薄れつつあるとも感じている。</p> <p>「人生100年時代」の到来など、社会状況が変化している中、次世代を担う子どもたちや高齢者が地域社会から孤立しないよう、町民一人一人が生きがいを持ち、健康でこころ豊かに暮らしていくためには、町の町民活動の活性化が重要であると考えます。</p> <p>そこで、次の点について質問する。</p> <p>(1) 町民活動推進補助金事業の現状について</p> <p>(2) 大磯町第三次生涯学習推進計画の進捗状況について</p> <p>(3) 町民活動に対して行う財政的支援等について、今後の町の取り組みは。</p> <p><b>2. 地域コーディネーターの役割・仕事について</b></p> <p>町では昨年3月に、地域コーディネーターを町の東西にひとりずつ配置し、活動をスタートさせた。1月末に大磯町教育委員会教育部生涯学習課発行の「地域コーディネーターのちこちこ新聞」によると、地域コーディネーターは「学校運営協議会」に参加し、地域で活動をする方々と学校をつなげ、「地域学校協働活動」を推進する役割を担って活動しているとある。そこで、次の点について質問する。</p> <p>(1) 地域コーディネーターは教育委員会の所属となるが、地域学校協働活動では、町の他の部署と関わらなければいけない場合もあると考えます。地域学校協働活動を推進するにあたり、教育委員会と地域コーディネーターは、どのように役割分担を行っているのか。</p> <p>(2) 町では、夏休みの子どもの居場所として、「夏休み放課後子ども教室」など、多くのイベントを開催しているが、実際には人数制限などもあり、利用できないこともある。多くの子どもに楽しい体験をさせてあげたいのは勿論だが、夏休み明けに子どもの自殺が多いという最近の課題も他人事ではない。自殺予防、悩みを抱える児童・生徒の早期発見のためにも、長期休暇中の児童・生徒の見守りは学校と地域をつなげる地</p>	<p>町長 教育長</p> <p>町長 教育長</p>

